

4. 人口減少と少子高齢化の状況

(1) 全国および滋賀県の人口の推移

日本の人口は、平成 17（2005）年の国勢調査では 1 億 2,777 万人、平成 22 年には 1 億 2,806 万人であった。国立社会保障・人口問題研究所による出生中位推計の結果に基づくと、この総人口は、以後長期の人口減少過程に入るとみられる。平成 42（2030）年には、1 億 1,522 万人となり、平成 58（2046）年には、1 億人を割って 9,938 万人となるものと推計されている。このように、日本は人口減少時代に突入し、右肩上がりの人口増加の趨勢は終焉する。

日本の出生率が 1970 年代半ばから人口を一定の規模で保持する水準（人口置換水準、合計特殊出生率で 2.08 前後の水準）を大きく割り込んでいるため、今後の見通しは超人口減少化がほぼ避けることの出来ない現象となる。

一方、滋賀県の人口については、現在も緩やかに増加しつつあるが、平成 27（2015）年前後をピークとして、減少に転じることが予測されており、全国よりもやや遅れて、人口減少が始まると考えられる。

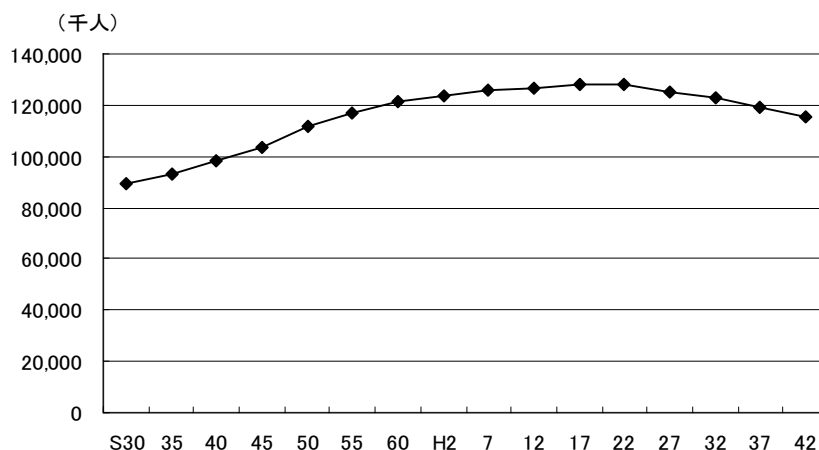


図 39 全国の人口推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成 18 年 12 月推計）。

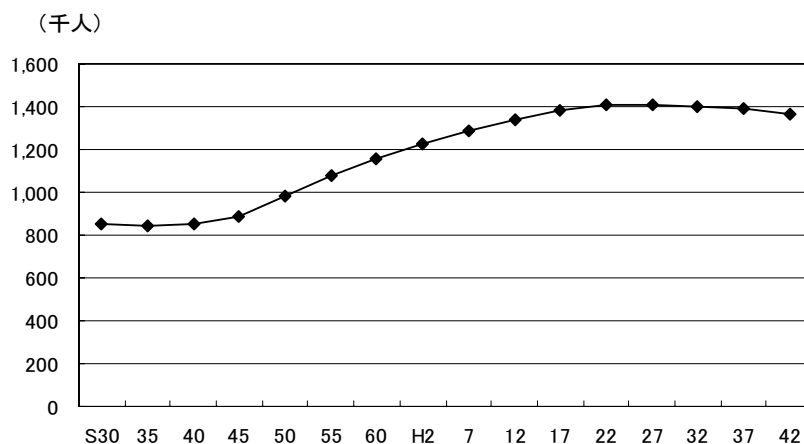


図 40 滋賀県の人口の推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成 19 年 5 月推計）。

(2) 全国および滋賀県の年齢別人口の推移

全国の年齢別人口では、年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口が増加しつづけており、平成 42（2030）年には、老年人口が 31.8%、年少人口が 9.7%となることが予測されている。

滋賀県においても、全国と比べると変化の程度はやや緩やかではあるが、年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加が進んでおり、平成 42（2030）年には、老年人口が 28.4%、年少人口が 11.2%となることが見込まれる。

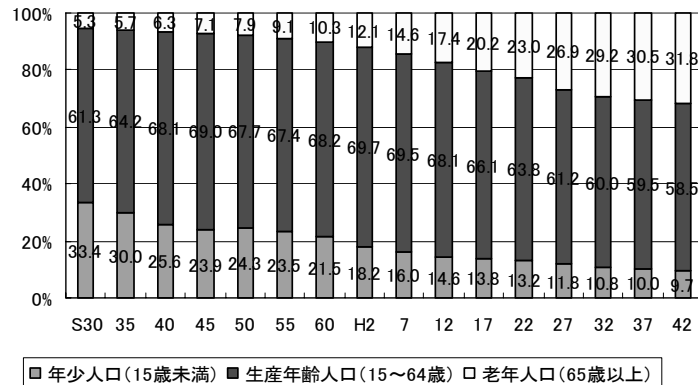


図 41 全国の年齢別人口比率の推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成 18 年 12 月推計）。

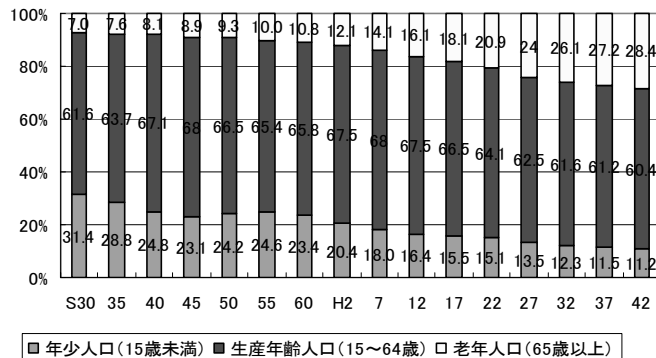


図 42 滋賀県の人口の推移

出典：平成 22 年度までの実績値は国勢調査。平成 27 年以降の推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成 19 年 5 月推計）。

(3) 周辺地域における家族形態の変化

大津市における家族形態の変化をみると、核家族世帯および単独世帯が増加しており、世帯人員の少ない、あるいは一人暮らしの世帯が増えつつある。

また、草津市においても、同様に、核家族世帯と単独世帯が増加しているが、特に平成6（1994）年の立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開設にともない、単独世帯が急激に増加している。

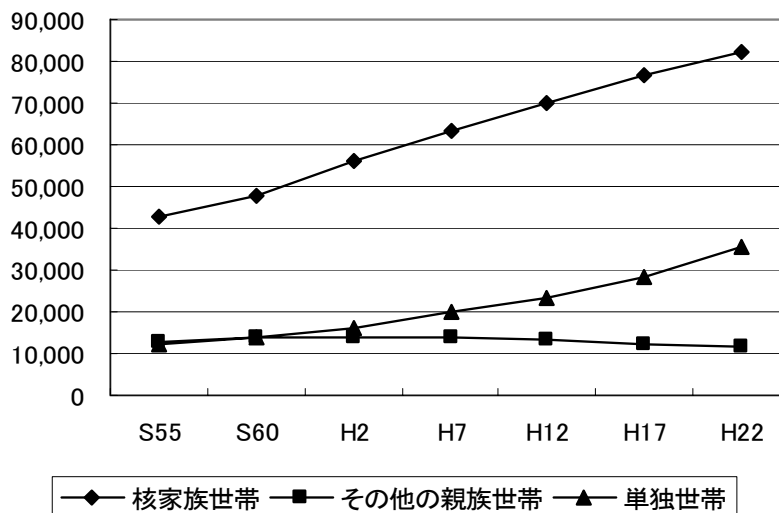


図 43 大津市における家族形態の変化

出典：国勢調査

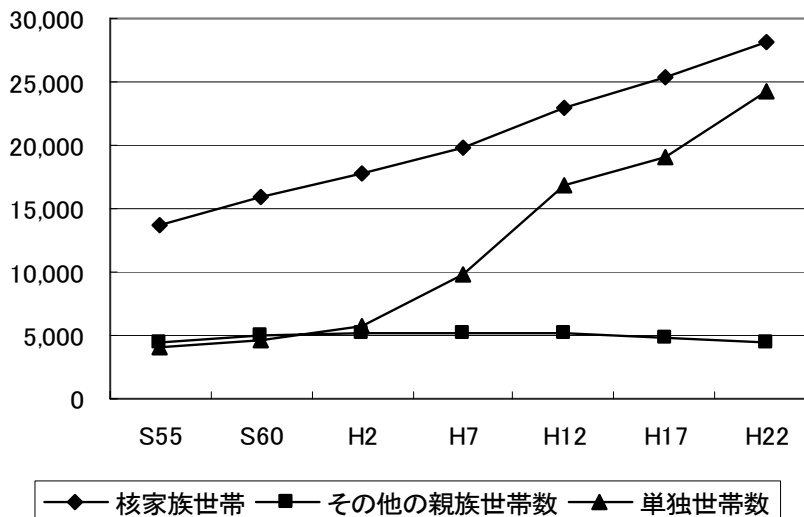


図 44 草津市における家族形態の変化

出典：同上

5. びわこ文化公園都市に関する県政モニターアンケート調査の結果

(1) 調査概要

びわこ文化公園都市の認知度などを把握するため、下記の要領で県政モニターアンケートを実施した。

【実施時期】 平成23年(2011年)10月

【対象者】 県政モニター(352人)

【回答数】 280人(回収率:79.5%)

【担当部課】 総合政策部企画調整課

【調査目的】 びわこ文化公園都市に対する県民の認知度、利用状況等を把握し、検討委員会での議論の参考とすることを目的として実施。

(2) 調査結果

1) 回答者属性

男女比は男性が約56%、女性が約44%で、年齢区分は60歳代が最も多い。また、居住地は天津地域が約33%と多くなっている。

表11 性別

項目	回答数	割合
1 男性	157	56.1%
2 女性	123	43.9%
計	280	100.0%

表12 年齢区分

項目	回答数	割合
1 10・20歳代	22	7.9%
2 30歳代	56	20.0%
3 40歳代	61	21.8%
4 50歳代	43	15.4%
5 60歳代	69	24.6%
6 70歳以上	29	10.4%
計	280	100.0%

表13 居住地

項目	1 天津地域	2 湖南地域	3 甲賀地域	4 東近江地域	5 湖東地域	6 湖北地域	7 高島地域	計
回答数	93	83	23	39	16	17	9	280
割合	33.2%	29.6%	8.2%	13.9%	5.7%	6.1%	3.2%	100.0%

2) びわこ文化公園都市の認知度

Q1. これまで、「びわこ文化公園都市」という名称を聞いたことがありますか。また、行ったことがありますか。(回答チェックは1つだけ)

びわこ文化公園都市の認知度は、「名称を知っていて、行ったことがある」と「名称は知っているが、行ったことがない」の回答を合計すると47.5%で、約半数の認知度となっている。また、「行ったことがあるが名称を知らない」との回答が約32%である一方、「名称も知らないし、行ったこともない」との回答が約20%で、びわこ文化都市の名称についての認知度はそれほど高くない。

表 14 認知度

項目	回答数	割合
1 名称は知っていて、行ったこともある(居住している・居住していた)	110	39.3%
2 名称は知らなかったが、行ったことはある(居住している・居住していた)	90	32.1%
3 名称は知っているが、行ったことはない	23	8.2%
4 名称も知らないし、行ったこともない	57	20.4%
計	280	100.0%

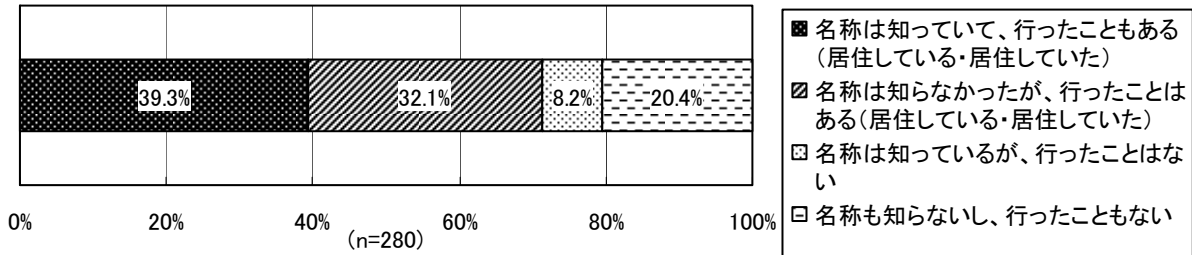


図 45 認知度

3) 来訪歴

Q 2-1. これまでに行ったことがある、びわこ文化公園都市の区域内的の施設や機関等すべてにチェックしてください。(複数回答)

びわこ文化都市の施設への来訪歴のうち、最も多いのが県立図書館(75%)で、次に県立近代美術館(74%)、滋賀医科大学付属病院(59.5%)、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(53.5%)、都市公園びわこ文化公園(40.5%)、龍谷大学瀬田キャンパス(39%)と続く。

また、住宅地への来訪も33.5%である。

こうした結果から、当該地域に立地する文化、学術・教育、医療施設への来訪歴が多い結果となっている。

表 15 来訪歴

項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1 県立アイスアリーナ	45	22.5%	15 歯科技工士専門学校・総合センター	2	1.0%
2 龍谷大学瀬田キャンパス	78	39.0%	16 びわこ学園医療福祉センター・草津	6	3.0%
3 都市公園びわこ文化公園	81	40.5%	17 精神保健福祉センター	8	4.0%
4 県立近代美術館	148	74.0%	18 精神医療センター	4	2.0%
5 県立図書館	150	75.0%	19 草津養護学校	5	2.5%
6 県埋蔵文化財センター	55	27.5%	20 むれやま荘	7	3.5%
7 東大津高校	38	19.0%	21 障害者更生相談所	3	1.5%
8 滋賀医科大学	45	22.5%	22 障害者福祉センター	11	5.5%
9 滋賀医科大学付属病院	119	59.5%	23 メイプル滋賀工場	1	0.5%
10 日赤滋賀県赤十字血液センター	42	21.0%	24 京都大学生態学研究センター	3	1.5%
11 長寿社会福祉(レイカディア)センター	47	23.5%	25 立命館大学びわこ・くさつキャンパス	107	53.5%
12 福祉用具センター	12	6.0%	26 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草)	67	33.5%
13 社団法人滋賀県薬剤師会	0	0.0%	27 その他	2	1.0%
14 中央子ども家庭相談センター	11	5.5%			

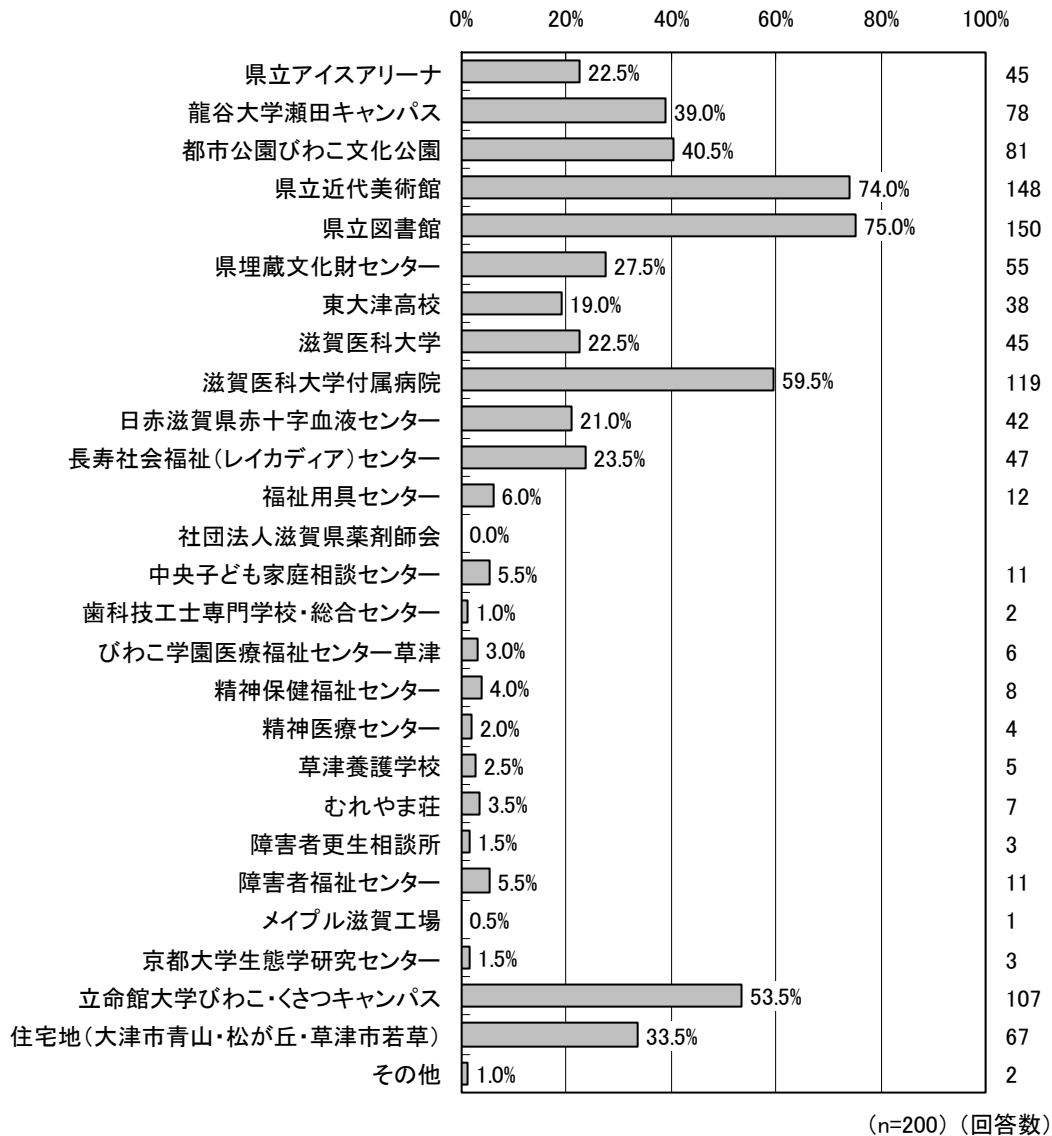


図 46 来訪歴

その他の施設・機関等

—

4) 来訪目的

Q 2 - 2. びわこ文化公園都市に行かれた目的すべてにチェックしてください。(複数回答)

来訪目的をみると、「図書館利用」、「美術・文化財観賞」などの文化行動が 70% 近くを占める。さらに、「イベント参加」が 42% と当該施設への催しの参加も多いことがわかる。

また、「見舞い・面会」が 33% で「治療リハビリ」が 29% と医療・福祉関連行動が全体の 1/3 程度をしめ、さらに「受講」が 30% と生涯教育の場ともなっている。

次に、「散策・散歩」ならびに「レクリエーション」がそれぞれ約 35%、約 23% で、当該地域の公園や緑の利用を併せると約 50% になる。

また、その他の目的として、花見やボランティア、研修などもあげられている。

このように、びわこ文化公園都市に立地する施設の特性に添って、来訪目的は多様である。

表 16 来訪目的

項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1 図書館利用	144	72.0%	11 調査	10	5.0%
2 美術・文化財鑑賞	143	71.5%	12 研究	8	4.0%
3 イベント参加	84	42.0%	13 受講	60	30.0%
4 通勤	11	5.5%	14 指導	2	1.0%
5 通学	9	4.5%	15 物品購入	10	5.0%
6 相談	14	7.0%	16 散策・散歩	69	34.5%
7 献血	26	13.0%	17 レクリエーション	45	22.5%
8 治療・リハビリ	58	29.0%	18 居住	5	2.5%
9 送迎	37	18.5%	19 その他	14	7.0%
10 見舞い・面会	66	33.0%			

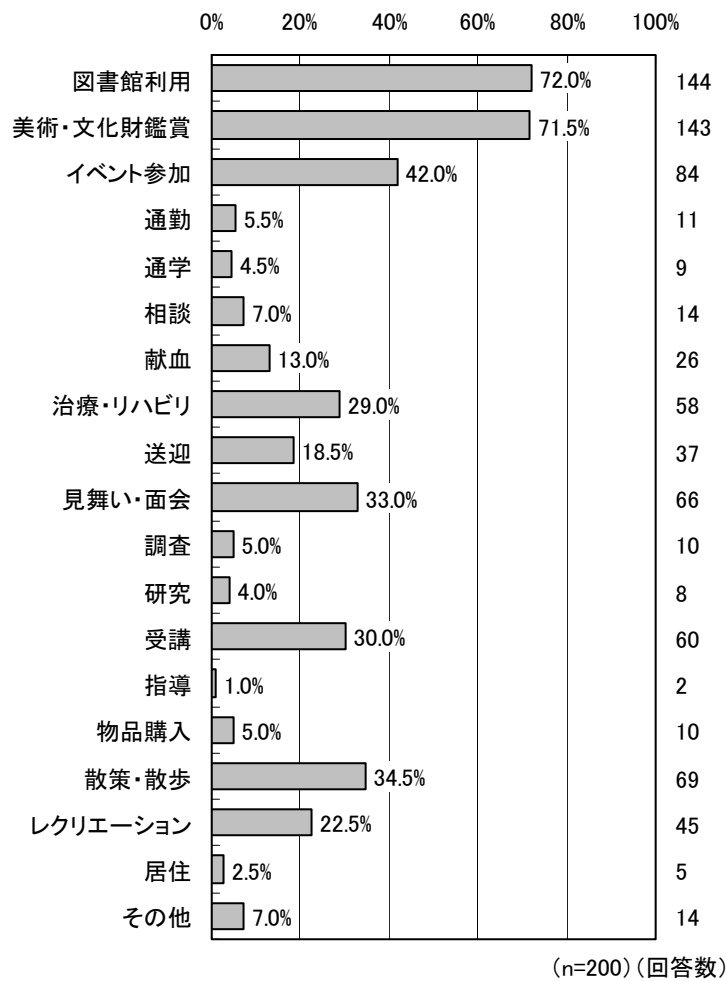


図 47 来訪目的

その他の目的

- ・花見・友人
- ・ボランティア
- ・研修
- ・知人宅訪問
- ・受験

5) 利用交通手段

Q2-3. びわこ文化公園都市に行かれた際の、交通手段の利用状況についてお尋ねします。
 次の各交通手段について、利用状況をお答えください。(各項目回答チェックは1つだけ)

当該地域への利用交通手段のうち、「よく利用する」との回答は、自家用車が約79%と大半を占め、路線バスが約12%と続く。その他としては、バイクや観光バス、コミュニティバス(草津市まめバス)、車椅子などの回答が得られた。

この結果、当該地域へは自家用車を利用手段とし、路線バスが補完している結果となっている。

表 17 利用交通手段

項目	1 よく利用する	2 たまに利用する	3 利用しない	計
1 路線バス	23 11.5%	52 26.0%	125 62.5%	200 100.0%
2 タクシー	3 1.5%	16 8.0%	181 90.5%	200 100.0%
3 自家用車	157 78.5%	21 10.5%	22 11.0%	200 100.0%
4 自転車	10 5.0%	21 10.5%	169 84.5%	200 100.0%
5 徒歩	5 2.5%	23 11.5%	172 86.0%	200 100.0%

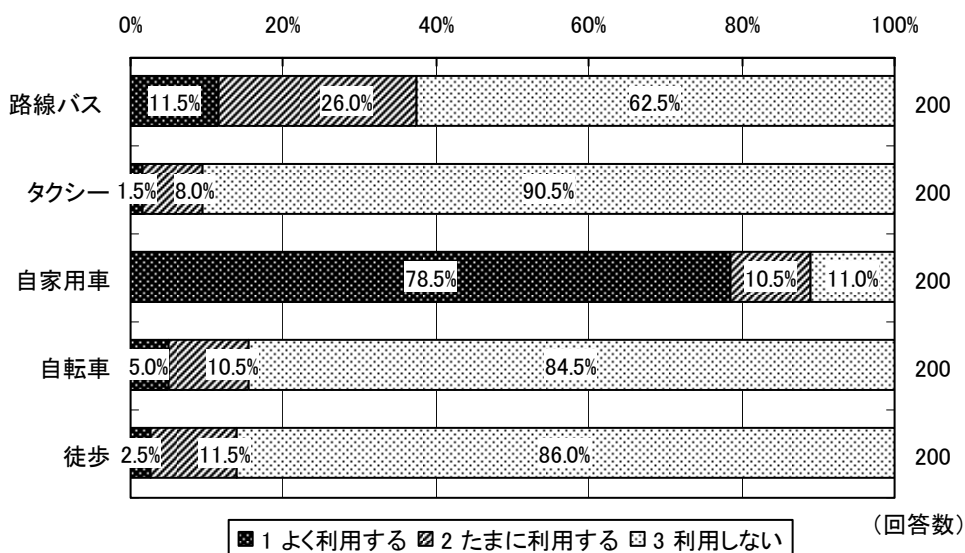


図 48 利用交通手段

その他の交通手段

- ・バイク
- ・その他自動車 (営業車・公用車)
- ・観光バス
- ・コミュニティバス (草津市まめバス)
- ・車椅子

6) びわこ文化都市のイメージ

Q3. びわこ文化公園都市のイメージについてお尋ねします。次の各項目ごとに、イメージされる程度をお答えください。(各項目ごとに回答チェックは1つだけ)

びわこ文化都市のイメージとして最も多いのが「自然・緑が豊かで癒される」で、「そう思う」と「少し思う」との回答を併せると約91%になる。

表 18 びわこ文化都市のイメージ

項目	1 そう思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 思わない	5 わからない	計
1 自然・緑が豊かで癒される	149 53.2%	107 38.2%	12 4.3%	7 2.5%	5 1.8%	280 100.0%
2 学生など若い人が多く活気がある	66 23.6%	113 40.4%	80 28.6%	13 4.6%	8 2.9%	280 100.0%
3 文化的な雰囲気があり心豊かになる	99 35.4%	126 45.0%	40 14.3%	8 2.9%	7 2.5%	280 100.0%
4 県内の他地域にはない専門的・高度な機能がある	64 22.9%	113 40.4%	69 24.6%	14 5.0%	20 7.1%	280 100.0%
5 将来的に発展の可能性がある	45 16.1%	120 42.9%	78 27.9%	23 8.2%	14 5.0%	280 100.0%
6 交通の利便性がよい	16 5.7%	40 14.3%	106 37.9%	105 37.5%	13 4.6%	280 100.0%
7 様々な年代の人々が利用している	68 24.3%	120 42.9%	55 19.6%	21 7.5%	16 5.7%	280 100.0%
8 立地する大学のノウハウが地域づくりに活かされている	17 6.1%	93 33.2%	97 34.6%	33 11.8%	40 14.3%	280 100.0%
9 立地する機関・施設が効果的に連携している	14 5.0%	93 33.2%	90 32.1%	35 12.5%	48 17.1%	280 100.0%
10 京阪神圏と名古屋圏の結節点として機能している	13 4.6%	23 8.2%	116 41.4%	96 34.3%	32 11.4%	280 100.0%
11 閑静な住宅地	50 17.9%	124 44.3%	59 21.1%	14 5.0%	33 11.8%	280 100.0%

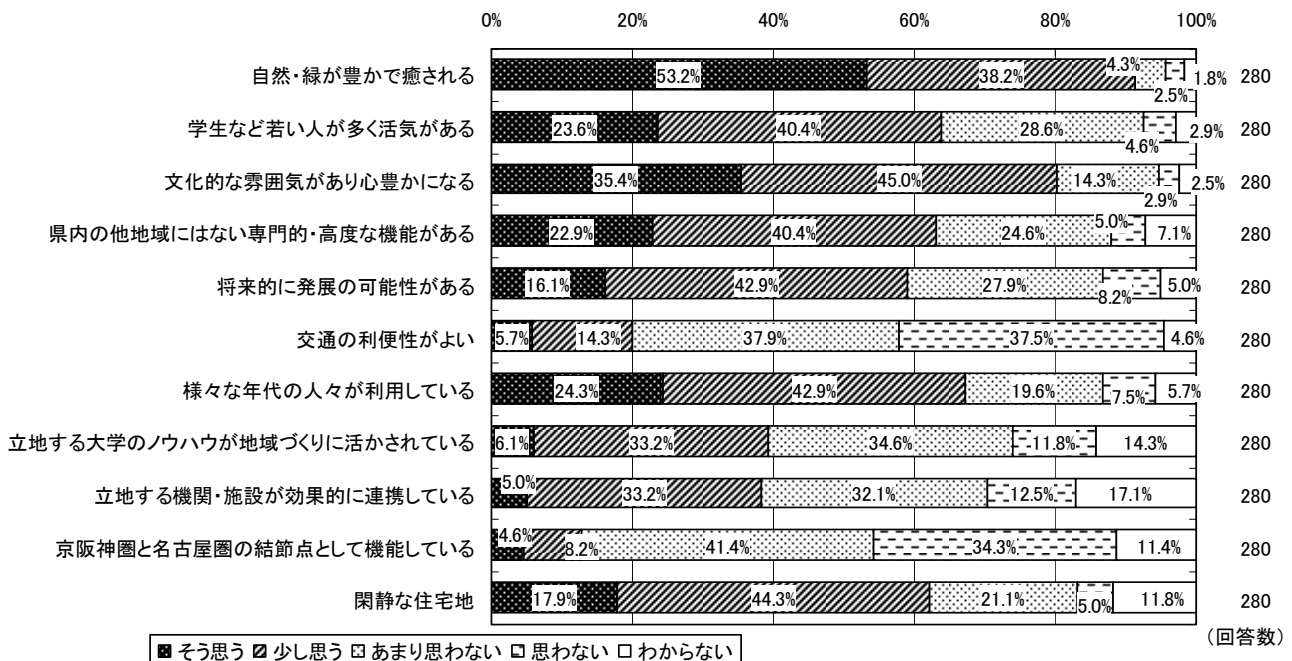


図 49 びわこ文化都市のイメージ

その他のイメージ

- ・有効利用されていない、惜しい空間と思う
- ・交通の便が非常に悪い（自家用車がないと気軽に行けない）

7) びわこ文化都市への期待

Q 4. 将来、びわこ文化公園都市にどのような機能や役割を期待されますか。次の各項目ごとに期待される程度をお答えください。(各項目ごとに回答チェックは1つだけ)

びわこ文化都市への期待は「高度・専門的な医療の拠点」、「文化・芸術の拠点」、「学術・研究の拠点」、「安全に憩える整備された公園」がそれぞれ40%を超えており、立地施設の機能をより一層充実させることが期待されている。

表 19 びわこ文化都市への期待

項目	1 そう思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 思わない	計
1 高度・専門的な医療の拠点	129 46.1%	111 39.6%	34 12.1%	6 2.1%	280 100.0%
2 高度・専門的な福祉の拠点	90 32.1%	124 44.3%	52 18.6%	14 5.0%	280 100.0%
3 文化・芸術の拠点	133 47.5%	112 40.0%	29 10.4%	6 2.1%	280 100.0%
4 学術・研究の拠点	121 43.2%	121 43.2%	32 11.4%	6 2.1%	280 100.0%
5 産業創出の拠点	38 13.6%	108 38.6%	111 39.6%	23 8.2%	280 100.0%
6 人材育成の拠点	83 29.6%	132 47.1%	53 18.9%	12 4.3%	280 100.0%
7 安全に憩える整備された公園	122 43.6%	115 41.1%	34 12.1%	9 3.2%	280 100.0%
8 都市近郊に残る貴重な森林	109 38.9%	127 45.4%	34 12.1%	10 3.6%	280 100.0%
9 健康維持向上や介護予防のためのフィールド	74 26.4%	139 49.6%	57 20.4%	10 3.6%	280 100.0%
10 多くの県民が集い、交流するフィールド	81 28.9%	119 42.5%	67 23.9%	13 4.6%	280 100.0%
11 閑静な住宅地	50 17.9%	126 45.0%	83 29.6%	21 7.5%	280 100.0%

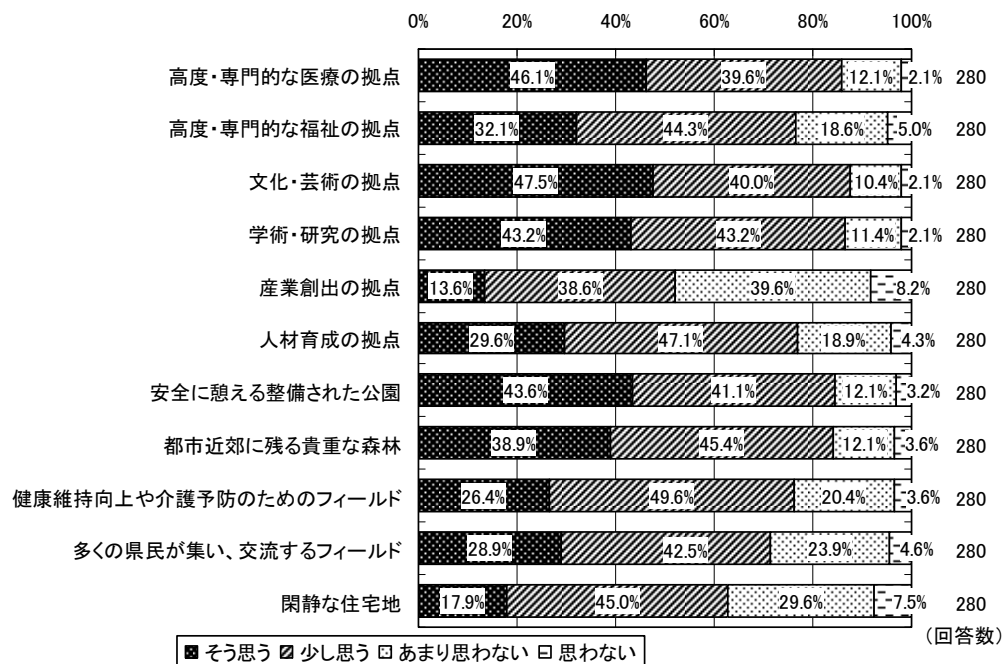


図 50 びわこ文化都市への期待

その他の期待

・交通至便。広報でいつも案内されている地域

(3) 調査結果の分析

1) 認知度・利用経験との相関

回答者の居住地とびわこ文化公園都市の認知度・利用経験との相関をみると、びわこ文化公園都市の所在する大津地域、湖南地域では利用経験が約8割に達する一方、湖東地域、湖北地域では5割以下の認知度、利用経験となっている。

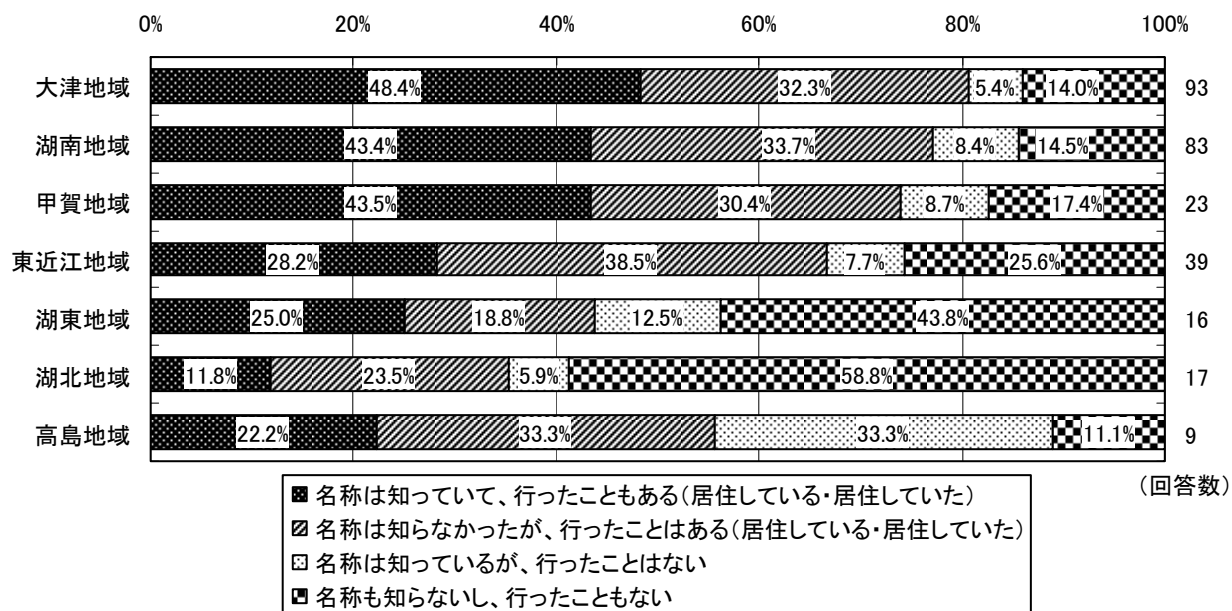


図 51 びわこ文化公園都市の認知度・利用経験と回答者居住地の相関

回答者の年齢区分と認知度・利用経験との相関をみると、年齢が高くなるほど認知度、利用経験は上昇し、10歳代～30歳代で約5割程度である利用経験が60歳代以上では約8割となる。

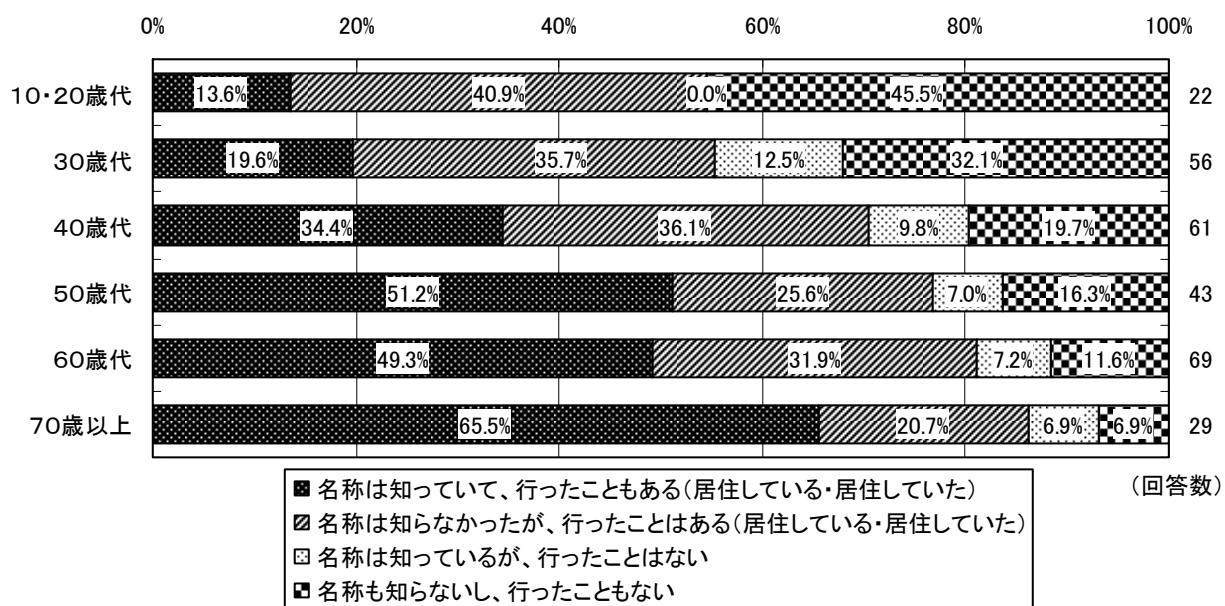


図 52 びわこ文化公園都市の認知度・利用経験と回答者年齢区分の相関

2) 利用施設との相関

びわこ文化公園都市の区域内の施設・機関等について、施設の目的・機能ごとに「芸術・文化」「医療・福祉」「教育・研究」「レクリエーション」「住宅」「その他」に区分し、調査結果との相関を分析した。

びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者年齢区分の相関をみると、芸術・文化施設の利用が40歳代～50歳代にかけて比較的割合が高くなっている。

医療・福祉施設は、70歳以上で約30%を占める他は各年齢区分とも25%前後となっている。

また、教育・研究施設は10・20歳代で約34%となるのに次いで、60歳代約29%、70歳以上約26.2%と高い割合を示しており、生涯学習の場として利用されていることが伺える。

表 20 びわこ文化公園都市 施設区分

施設名	施設区分	
4 県立近代美術館	芸術・文化	
5 県立図書館		
6 県埋蔵文化財センター		
9 滋賀医科大学付属病院		医療・福祉
10 日赤滋賀県赤十字血液センター		
11 長寿社会福祉(レイカディア)センター		
12 福祉用具センター		
13 社団法人滋賀県薬剤師会		
14 中央子ども家庭相談センター		
15 歯科技工士専門学校・総合センター		
16 びわこ学園医療福祉センター草津		
17 精神保健福祉センター		
18 精神医療センター		
19 草津養護学校		
20 むれやま荘		
21 障害者更生相談所		
22 障害者福祉センター		
23 メイプル滋賀工場	教育・研究	
2 龍谷大学瀬田キャンパス		
7 東大津高校		
8 滋賀医科大学		
24 京都大学生態学研究センター		
25 立命館大学びわこ・くさつキャンパス	レクリエーション	
1 県立アイスアリーナ		
3 都市公園びわこ文化公園		
26 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草)	住宅	
27 その他	その他	

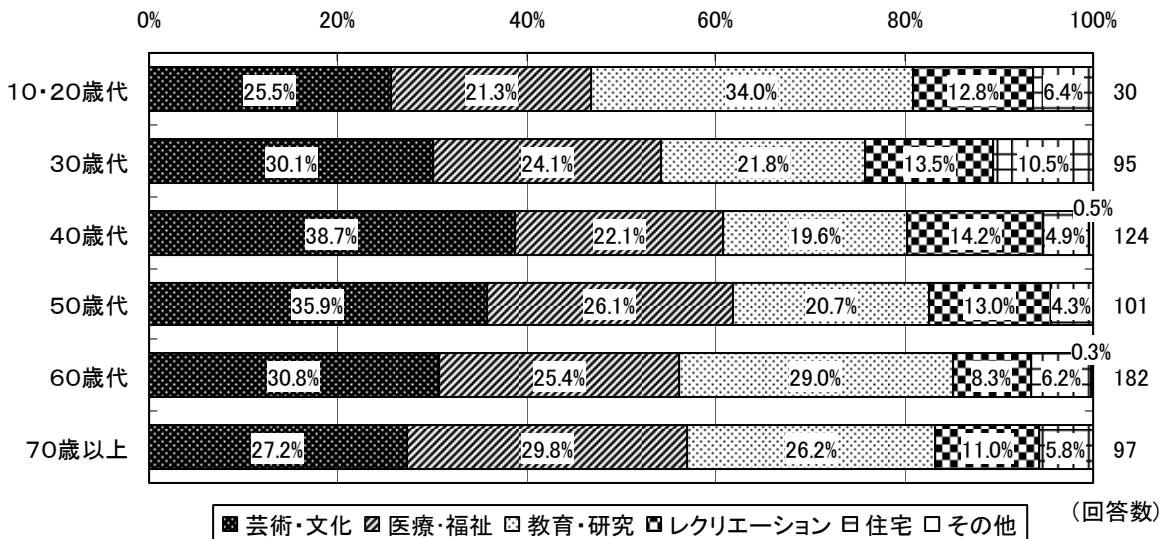


図 53 びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者年齢区分の相関

利用施設区分と回答者居住地の相関をみると、びわこ文化公園都市の所在する大津地域、湖南地域では教育・研究施設及び住宅の割合が比較的高くなっている。その他地域では、湖北地域を除き芸術・文化施設の割合が高くなっており、湖北地域では医療・福祉施設の割合が高くなっている。またレクリエーション施設は大津地域及び湖東地域からの利用が比較的高くなっている。

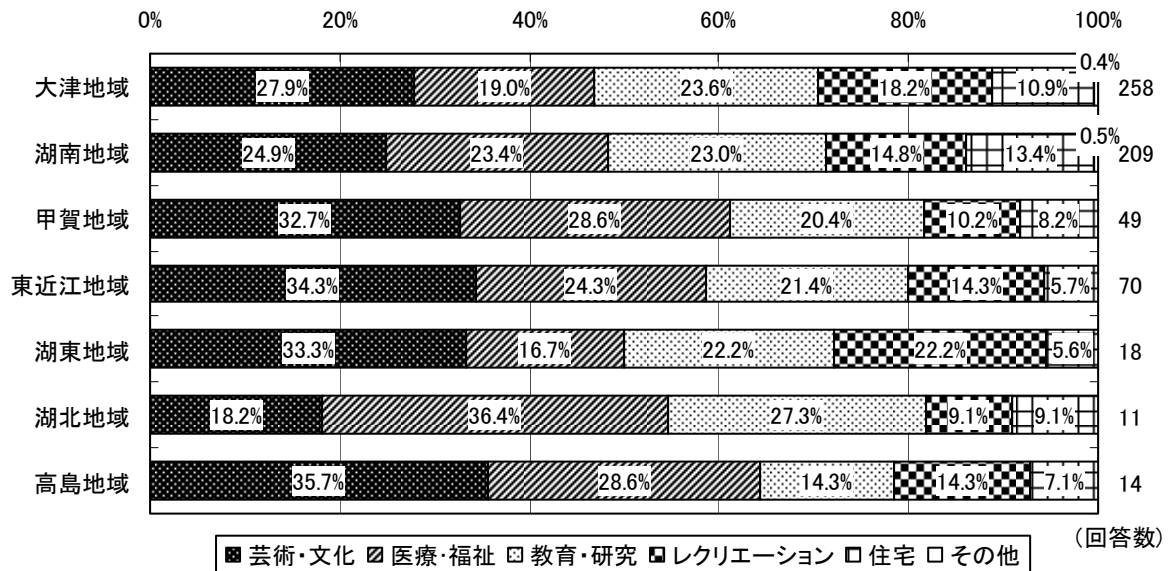


図 54 びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者居住地の相関

びわこ文化公園都市のイメージについて「そう思う」と回答した割合が高い上位 5 項目について、利用施設区分との相関をみると、『自然・緑が豊かで癒される』『文化的な雰囲気があり心豊かになる』の項目について、芸術・文化施設を利用する回答者の割合が比較的高くなっている。

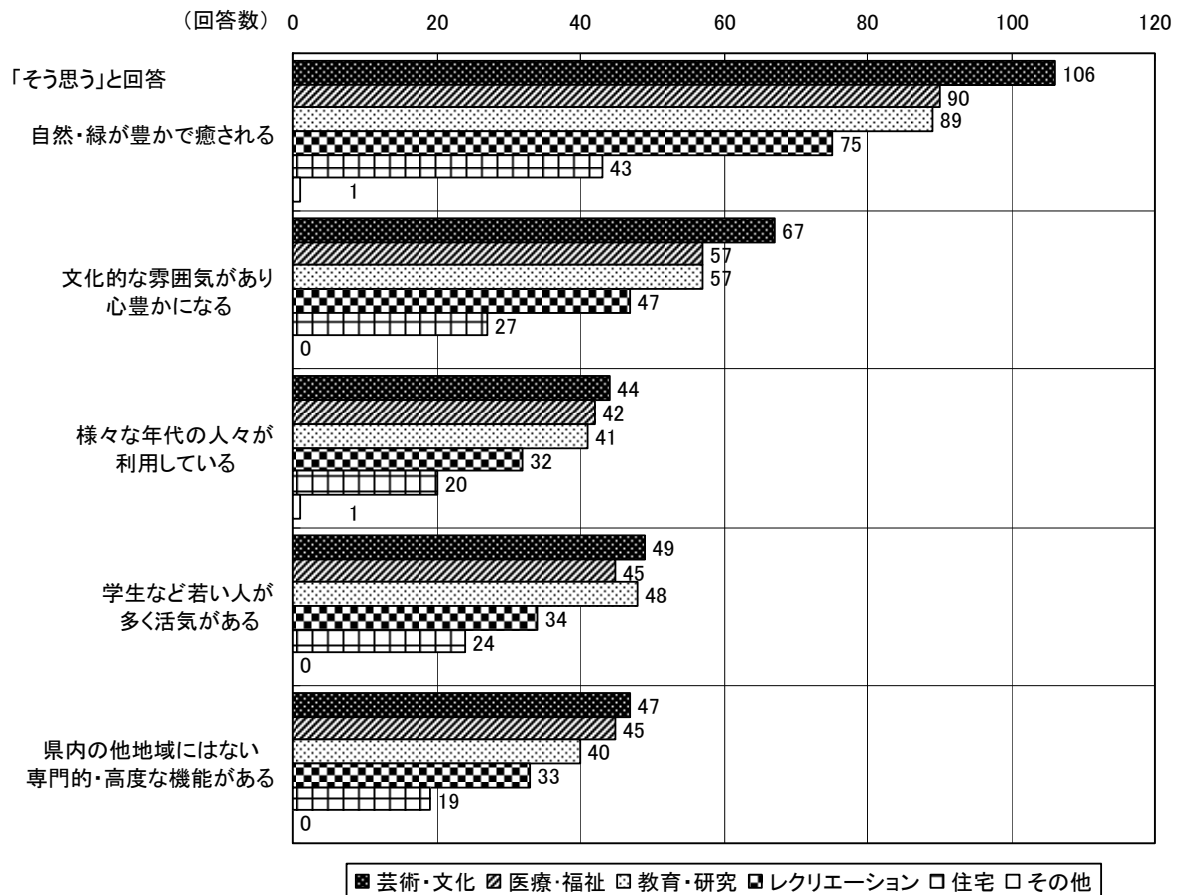


図 55 びわこ文化公園都市の利用施設区分とびわこ文化公園都市イメージの相関

3) 利用交通手段との相関

びわこ文化公園都市への利用交通手段（「よく利用する」と回答した項目）と回答者居住地の相関をみると、各地域とも自家用車の利用が最も高くなっているが、近隣の天津地域、湖南地域、甲賀地域からは自転車や徒歩でのアクセスがみられる。特に天津地域では、自家用車（約73%）、路線バス（約14%）に次いで自転車（約10%）の利用割合が高くなっている。

一方、遠方からのアクセスでは、湖東地域（約33%）、湖北地域（約20%）と、利用者の2割以上が路線バスを利用する。これらの地域からは鉄道—路線バスの乗り継ぎによるアクセスが行われていると考えられる。さらに以遠の高島地域からは、自家用車の利用が100%となる。

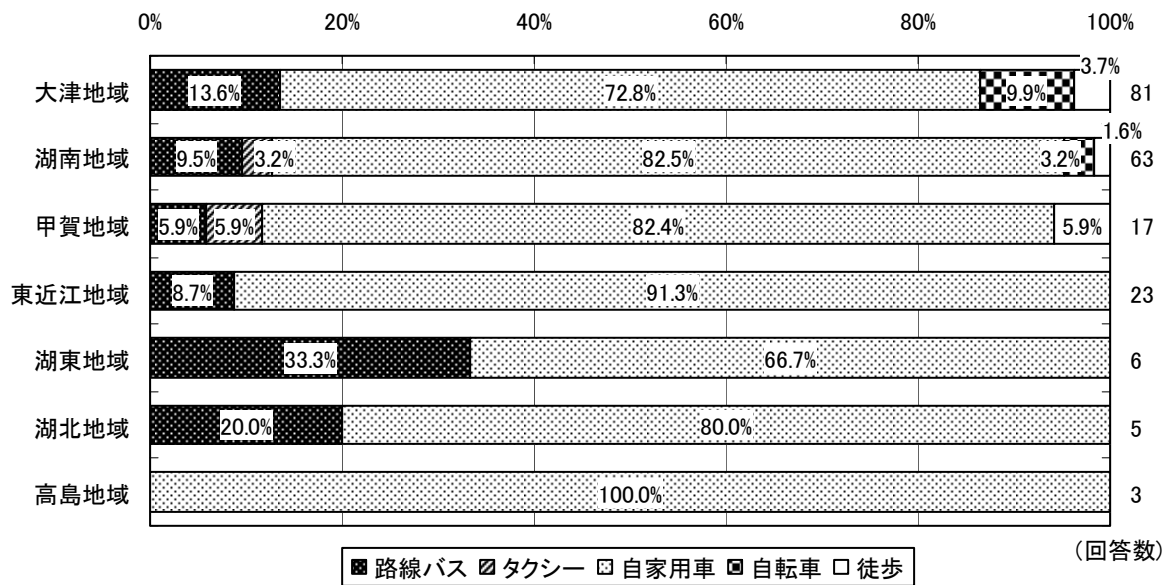


図 56 びわこ文化公園都市までの利用交通手段と回答者居住地の相関

びわこ文化公園都市への利用交通手段（「よく利用する」と回答した項目）と利用施設の相関をみると、各施設とも自家用車の利用が最も高くなっているが、『中央子ども家庭相談センター』『びわこ学園医療福祉センター草津』『福祉用具センター』等の福祉関係施設において、路線バス利用の割合が高くなっている。

これら福祉館系施設ではまた、タクシーの利用割合も高くなっている。

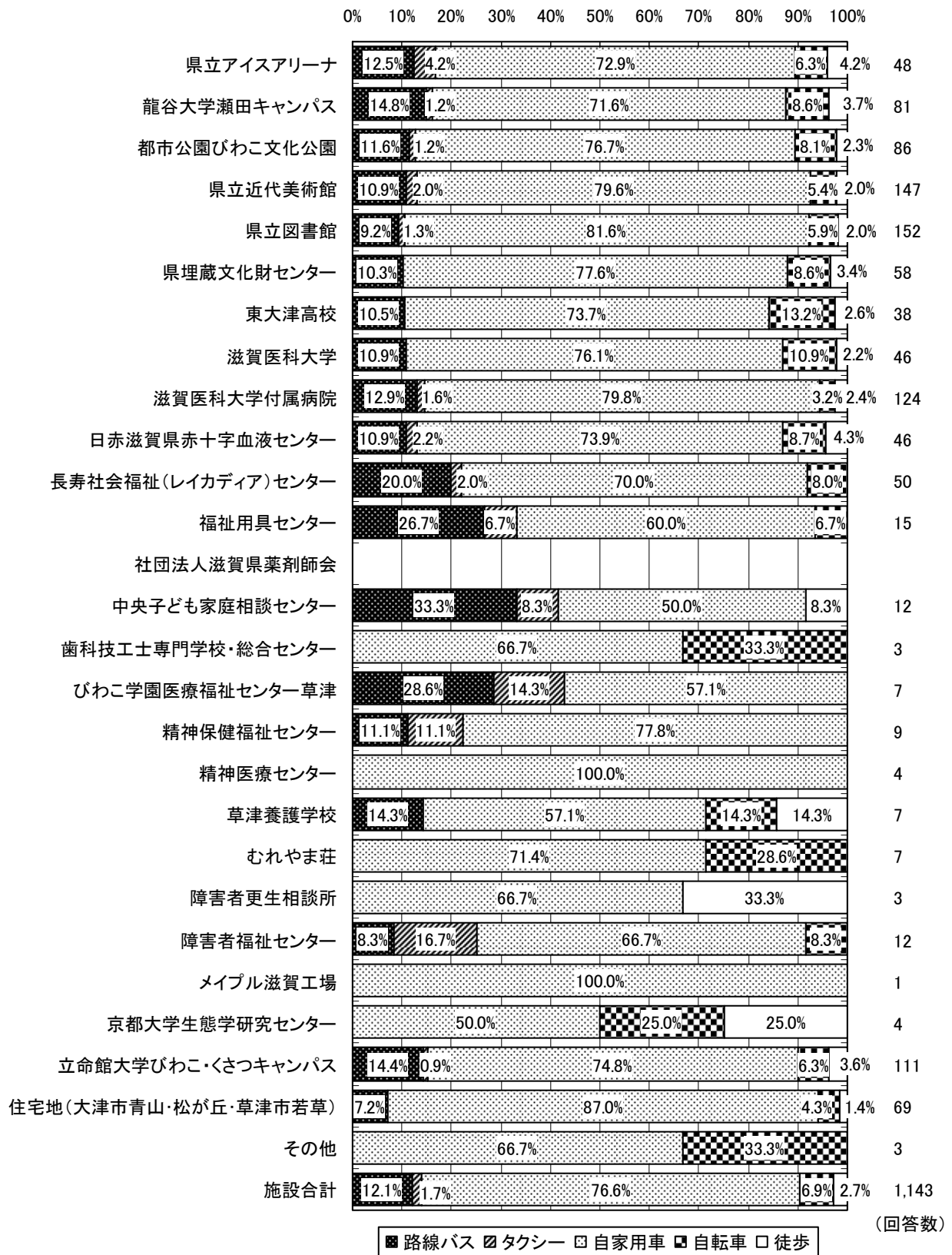


図 57 びわこ文化公園都市までの利用交通手段と利用施設の相関

6. びわこ文化公園都市の各施設に対するヒアリング調査の結果

びわこ文化公園都市に立地する 25 の施設・機関の代表者に対し、びわこ文化公園都市に関する課題や将来に向けた意向等についてアンケート調査およびヒアリング調査を実施し、以下に概要をまとめた。

(1) びわこ文化公園都市に立地することに対する評価

びわこ文化公園都市に立地することに関して、どのような点を評価しているかについて、下表の項目から回答を求めた（複数回答可）。その結果、「豊かな緑に囲まれ落ち着いた環境である」が 23 件と最も多く、次いで、「車でのアクセスがよい」（13 件）、「利用しやすい文化施設や都市公園が整備されている」（7 件）などが多かった。

表 21 びわこ文化公園都市に立地することに対する評価

項目	回答数
①豊かな緑に囲まれ落ち着いた環境である	23
②貴施設の機能や役割の面から地理的に適当な位置にある	5
③車でのアクセスがよい	13
④公共交通機関でのアクセスがよい	3
⑤必要な敷地を確保できる	2
⑥多様な施設・機関が集積しており連携・交流が容易である	3
⑦利用しやすい文化施設や都市公園が整備されている	7
⑧大学が集積し若者が多い	3

(2) びわこ文化公園都市に関する課題

1) アンケート調査におけるびわこ文化公園都市に関する課題

びわこ文化公園都市に関する課題について、下表の項目から回答を求めた（複数回答可）。その結果、「公共交通機関によるアクセスの不便さ」が 19 件と最も多く、次いで、「食事や買い物をする場所が少ない」（17 件）、「地域住民等との関わりや連携が不足している」（10 件）、「びわこ文化公園都市内での施設間の移動が不便」（10 件）などが多かった。

表 22 びわこ文化公園都市に関する課題

項目	回答数
①公共交通機関によるアクセスの不便さ	19
②駐車場の不足	11
③食事や買い物をする場所が少ない	17
④施設の拡張が難しい	7
⑤それぞれの施設間の連携や交流が少ない	7
⑥地域住民等との関わりや連携が不足している	10
⑦治安上問題がある	5
⑧びわこ文化公園都市内での施設間の移動が不便	10
⑨防災上問題がある	2
⑩樹林地などで荒れている箇所がある	9
⑪有効に利用されていない区域がある	6
⑫その他	1

2) ヒアリング調査におけるびわこ文化公園都市に関する課題

ヒアリング調査の結果から、各施設・機関によるびわこ文化公園都市の課題に関する意見について、下表に概要をまとめた。

表 23 びわこ文化公園都市に関する課題

大分類	小分類	内容
交通に関する課題	びわこ文化公園都市へのアクセスに関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 駅から遠いため、公共交通によるアクセスが不便である。 ・滋賀医大附属病院までのバスの便数は比較的多いが、福祉ゾーンまで来るバスが少ない。 ・文化施設とバス停がある場所とが離れているため、高齢者等が利用しにくい。 ・当該地域と南側の田上地区とを結ぶ道路が未整備なため、アクセスが不便である。
	びわこ文化公園都市内の移動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設間の距離が離れており、また、施設間をつなぐバスの路線も少ないため、徒歩やバスでの移動が難しい。
	歩行者や車椅子利用者に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の幅が狭く、管理状態も悪いため、徒歩や車椅子で移動しにくい箇所がある。
施設等に関する課題	駐車場の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園（文化ゾーン）の駐車場の容量が足りておらず、利用者の多い土日には、満車になることが多い。 ・福祉施設の駐車場についても、足りていない施設が多い。
	サービス施設の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や買い物ができる場所が少ないため、不便である。
	樹林等の管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林地などに下草が繁茂しており、景観が悪くなっている。
	敷地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林のまま残されており、有効に利用されていない区域がある。
安全性に関する課題	街灯の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯が少なく、交番も無いため、日没後などに不安を感じることもある。
	交通量の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路の交通量が増加しており、注意を要する。
規制等に関する課題	イベント利用等に関する規制	<ul style="list-style-type: none"> ・各種法規制等のため、イベントなどで活用することが難しい。
	施設拡張の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制のため、施設を拡張することが難しい。
PR や案内表示等に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園都市の知名度がまだまだ低く、どのような施設があるかということが、あまり伝わっていない。 ・施設に関する案内標識等が分かりにくい。
連携や交流に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・施設間の交流、特に分野の異なる施設との交流が少なく、びわこ文化公園都市としての一体感に乏しい。 ・施設間での交流が少ないため、互いの取組の内容などについての情報が不足している。 ・施設同士の公的な連携体制が無い場合、連携事業や共同研究などを行うことが難しい。

(3) びわこ文化公園都市の将来に向けた意向

ヒアリング調査の結果から、各施設・機関によるびわこ文化公園都市の将来に向けた意向について、下表に概要をまとめた。

表 24 びわこ文化公園都市の将来に向けた意向

大分類	小分類	内容
全体的な将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・文化の情報発信基地としてのさらなる活性化。 ・樹林地等の管理や街灯整備などによるびわこ文化公園都市全体の環境の向上。 ・瀬田丘陵生産遺跡群などの歴史を活かした文化公園都市のあり方の検討。 ・森林の魅力を活かすとともに、既存の施設等を活性化することによるびわこ文化公園都市の魅力の充実。
施設間の連携の強化	情報交流や協議の場の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の間で情報交流や連携に関する提案などができる交流の場の設置。 ・防災などの具体的なテーマに応じた施設間の協議の場の設置。
	連携事業等の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設、医療・福祉施設、学校等の連携によるサービスや事業、イベント等の実施による利用の活性化。 ・大学と福祉施設等との連携による共同研究の促進。 ・福祉施設と美術館との連携によるアール・ブリュットの取組の検討。 ・施設間での駐車場の融通や利用料金の軽減などの、相互協力の仕組み。 ・各施設の従業者のための保育所など、福利厚生施設の共有に関する検討。
	情報通信基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・光ケーブルによるネットワークなどの情報通信基盤の整備による施設間の連携の強化。
交通システムに関する検討	公共交通等によるアクセス性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの増便やルートの見直し、バス停の位置の検討などによるJR駅からのアクセスの向上。 ・当該地域南側の田上地区等からのアクセスの向上。
	びわこ文化公園都市内の施設間のアクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ文化公園都市内の各施設をつなぎ、巡回するバス路線の整備による利便性の向上。 ・びわこ文化公園都市内における新しい交通システムの検討(コミュニティバス、レンタサイクル、セグウェイ等)。
	車椅子や徒歩で通行しやすい歩道等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の通行可能な歩道や、自転車と歩行者の分離などによる、公園内の各ゾーンをつなぐ、安全で歩きやすい歩道の整備。
便益施設等の整備	駐車場の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ゾーンの駐車場の拡張整備。 ・福祉ゾーンの各施設が共有できる駐車場の整備。 ・未利用の区域を活用した駐車場の整備。
	サービス施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や買い物ができる場所の整備。
	街灯の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯の整備、充実。
都市公園区域の利用活性化	イベント等に関する規制の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・規制の緩和などによる、イベント利用の促進。
	公園施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・野外ステージの設置による公園のイベント利用の活性化。 ・四季の花が楽しめるなど、多くの県民が憩えるような場としての魅力の充実。

産官学連携の拠点としての機能の強化	研究施設の誘致等による集積の強化	・工業技術センターの誘致などによる、研究施設の集積による研究開発拠点としての機能の強化。
	大学、企業等が共用できる研究開発施設の設置	・各大学や企業等が共用できる研究開発施設の設置による、産官学連携拠点としての機能の強化。 ・海外企業が拠点を置けるような研究開発施設の設置による、国際競争力の強化。
	医工連携に関する特区の設置	・特区の設置等による、既存の大学等の集積を活かした、医学と理工学の連携促進。
教育・研究の拠点としての機能の充実		・大学等の教育、研究機関の集積を活かし、国際的な競争力のある学術研究都市としての機能の充実。
医療・福祉の拠点としての機能の充実	福祉関連施設の集積の強化	・福祉関連施設の集積強化による県の福祉拠点としての機能の充実。
	医療に関する施設等の整備	・閑静で緑豊かな環境を活かしたガン患者の緩和ケア施設や、先進医療を実施する高度医療センターなどの整備。 ・自然環境や医療・福祉関連施設の集積を活かした、患者等の回復過程を支援できるような仕組みの検討。
交流の拠点となる施設等の検討	交流の拠点となる施設の設置	・地域住民や学生、各施設の利用者等の憩いや交流の場となり、各種活動や施設間連携の拠点となる施設の設置。 ・学生やNPO等への運営の委託。 ・地域住民や福祉施設利用者等が気軽に立ち寄れて、交流することができる、喫茶やコンサートなどに使用できる共有スペースの設置。 ・福祉等に関わるNPOなどが拠点を置くことができ、組織間の連携などが図れる施設の設置。
	屋外の交流スペースの整備	・福祉施設等の利用者が、菜園やガーデニングなどができる屋外の共有スペースの整備。
新たな施設等の導入	博物館等の整備	・滋賀の仏像文化を活かした博物館等の整備による、他府県も含めた利用の活性化。
	スポーツ施設の整備	・スポーツ関連施設の導入による生涯スポーツの拠点としての整備。
	文化関連施設の充実	・東側の区域における文化をシンボライズする施設の整備の検討。
PRや案内標識などの改善検討	PR等の充実	・県民に親しみを持ってもらえる名称への変更の検討。 ・びわこ文化公園都市に関する広報、周知の充実。
	案内標識等の改善	・道路上の案内標識やJR駅での案内などの充実。
樹林地等の管理・整備	遊歩道等の整備	・山林などを活用した遊歩道やアスレチックなどの整備。
	樹林地等の管理の推進	・樹林地や街路樹等の適切な管理の推進。
その他	対象区域の見直し	・隣接地などを含めたびわこ文化公園都市の対象区域の見直し、および一体的な活用。
	開発等に関する規制の緩和	・開発等に関する各種規制の緩和の検討。

7. 地域団体へのヒアリング等の結果

びわこ文化公園都市内および近隣の小学校区連合自治会等の代表者に対し、びわこ文化公園都市に関する課題や将来に向けた期待等についてヒアリングおよびアンケートを実施した。

(※一部集計中)

(1) 大津市の地域団体に対するヒアリング等の結果

1) 対象団体

- ・上田上学区自治連合会、青山学区自治連合会、瀬田学区自治連合会、瀬田北学区自治連合会、瀬田南学区自治連合会、瀬田東学区自治連合会、大津市瀬田東文化振興会、大津市商工会議所

2) 結果

■びわこ文化公園都市の評価

大分類	小分類	内容
環境		・多くの施設があって恵まれた環境である。
交通アクセス		・自転車や徒歩での利用が多い。

■びわこ文化公園都市の課題

大分類	小分類	内容
施設等に関する課題	駐車場の不足	・びわこ文化公園（文化ゾーン）のバス駐車スペースがあまり活用されていない。また、乗用車は満車になることが多い。
	サービス施設の不足	・食事ができる場所がない。
	樹林等の管理に関する課題	・草刈などの管理が行き届いていない箇所があり、ゴミの不法投棄も一部にみられる。
安全性に関する課題		・人通りが少なく、街灯も少ないため、日没後などに不安を感じることもある。
広報に関する課題		・アイスアリーナはPR不足である。もっと広報すれば地域住民等が活用できる。 ・遠くに行かなくても各施設では結構楽しめるイベントや取組があるのに、それが知られていない。
連携に関する課題	大学等との交流不足	・イベント時を除いて大学と日常的な交流はない。

■将来に向けた期待

大分類	小分類	内容
都市の将来像	ゾーニング	・各エリアに特長を持たせた利用方法の適正化
交通アクセス性の向上	アクセスの向上	・バスの利便性の向上
	駐車場の拡充	・びわこ文化公園（文化ゾーン）の駐車場の拡充
地域との連携による取組みの促進	連携による利用の活性化	・日頃から個人の利用は多く、また様々な専門家もいるので、各施設や大学と地域住民との連携による取組みはもっとできる。
	施設利用の活性化	・地域住民や子どもを対象とした教室の開催などによる施設利用の活性化
	施設活用の仕組みづくり	・公園利用の公平な開放、利用方法の検討
	ウォーキングによる利用の促進	・自然や歴史資源、施設などをルートに組み込むことによるウォーキング利用の促進

利便施設整備		<ul style="list-style-type: none"> ・文化ゾーン内の飲食施設等の整備 ・ウォーキング時に利用できるトイレの整備
広報の充実	—	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関する広報の充実による利用の活性化
イベントの開催		<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えて交流できるイベントの開催 ・周辺も含めた歴史資源を活かした企画展の開催
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林地の再生（マツタケ山の再生）

(2) 草津市の地域団体に対するヒアリング調査の結果

1) 対象団体

- ・志津南自治連合会、南笠東学区自治連合会、玉川自治連合会

2) ヒアリング結果

■びわこ文化公園都市の評価

大分類	小分類	内容
住環境		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館や病院もありいい環境である。
交通アクセス		<ul style="list-style-type: none"> ・新快速も止まるようになってさらに便利になった。 ・駅からのバス便も多い。
利用		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生から大学生、親子連れなど幅広い利用がある。

■びわこ文化公園都市の課題

大分類	小分類	内容
居住階層にする課題	高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・早い時期からの入居者が多く高齢化が進んでいる
交通施設に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴いバス交通が重要になっているが、現状は横の移動が難しい。
連携不足		<ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備は終わったがソフトの整備ができていないので集積が活かされていない。

■将来に向けた期待

大分類	小分類	内容
交通アクセス性の向上	公共交通によるアクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・2市が連携したびわこ文化都市内を循環するコミュニティバスの運行
施設整備の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の人々が訪問したくなるような施設整備（琵琶湖の眺望スポット、道の駅、周回道路等）
地域との連携による取組の促進	連携による地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で取り組む河川の生物観察に係る上流の大学や施設との連携促進 ・「みなくさまつり」のような大学や企業との連携した取組の推進
	連携のための仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一の時に備えて日頃からの情報共有が必要 ・高齢化や防災への対応は地域としても大変重要であり、地域連携協議会のテーマになりうる